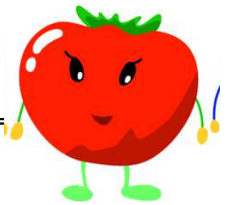




第13回「九条のつどい」



改憲発議まで3年をきったいま、国民投票法は動き出しているのか、国民の见えないところで何がどう動いているのか…

いまどうなっている?!改憲の動き

国民投票法のうら・おもて

衆議院議員 保坂展人氏 に聞く

- ★安倍内閣は、なぜ急いで改憲をしようとしたのか。
- ★憲法調査特別委員会は、今どうなっているのか。
- ★福田内閣になって、どこがどうなるのか。
- ★発議まで3年をきったが、このままでよいのか。

などなど知らないで済ますわけにはいかないことがたくさんあります。国会の動き、政府の動きなど、国会議員として渦中にいた保坂氏の生の声を聞いてみませんか。

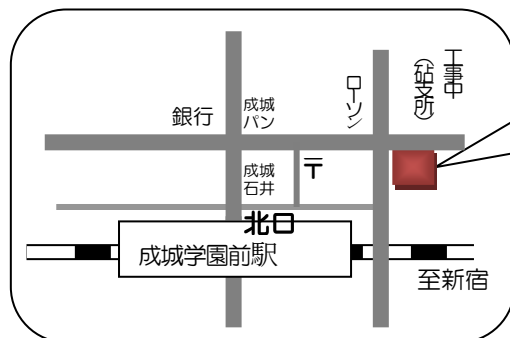
そうだよ。国会中継なんか見ていると、この国はこれでいいのか、って気になるよね。大人社会が弱い者いじめをしているから子供もまねするんだよね!

このごろ、知らないうちにおかしなことが起きていくような気がしないかい?

日時 2007年 12月1日(土)
午後1時30分~4時30分

場所 砧総合支所2階 第2会議室

資料代 600円



砧支所2階
第2会議室

主催/成城地域「九条の会」

《連絡先: 道家 (3484-6655) 根岸 (3483-6508)》

成城地域「九条の会」活動のあゆみ

回	時	テーマ	講師	内容
第1回	2004.10	『九条の会』発足記念講演会の記録ビデオを見る会		9氏による「九条の会」発足会の記録ビデオを観る会が成城地域「九条の会」の発足となった。 「会が発足してよかった」「九条を広げるには」「集会での若者の発言がよかった」「憲法の勉強会をしてほしい」など反響の声が多くあり、9氏のアピールをひろげること、九条を中心に勉強を重ねることを当面の活動とすることを決定。
第2回	2005.2	憲法第9条は世界市民の願い	佐々木隆爾氏 (日本大学教授)	ハーグ平和アピール市民会議(1999年5月)は「10の基本原則」の第一に「各国議会は、日本国憲法9条のように、政府が戦争をすることを禁止する決議を採択すべきである」ことをあげ、全世界に訴えた。
第3回	2005.5	自衛隊の軍事力と憲法9条	山田 朗氏 (明治大学教授)	日本の自衛隊は「異常な軍事力」を備えた違憲の存在。既成事実のあとで法律がつくられ、戦争容認の価値観が社会に入ってくる。平和勢力の抵抗・反撃の拠点は、教育基本法と憲法九条にもとづく民意の形成。
第4回	2005.8	ヒロシマと憲法9条	小西 悟氏 (日本原水爆被害者団体協議会事務局次長)	自ら被爆し、直後の惨状を目にしたショックの凄まじさに、それから自宅にたどり着くまでのすべての記憶を奪われてしまった。『地獄』を生み出す絶滅兵器。人間を殺人マシンにさせる戦争を、どんな口実であっても起こさしてはならない。 憲法九条は歴史教訓と戦争体験が生み出した宝物だ。
第5回	2005.11	映画「陸軍」 (原作:火野葦平 監督:木下恵介)	主演:田中絹代・笠智衆・上原謙 昭和19年、戦時言論統制ことに軍の厳しい検閲下でありながら、戦争への異議申し立てを果敢にそして巧みに描きこんだ名作。 21世紀の観客に、戦争、中でも日本のアジア太平洋戦争を振り返らせ考えさせる。	
第6回	2006.3	太平洋戦争は「自存自衛」の戦争か	山田 朗氏 (明治大学教授)	前回上映した映画「陸軍」を観賞後、皆さんから「なぜ開戦に踏み切らなければならなかったのか知りたい」という要望に応じて再び山田先生にお願いした。 当時の弱小国への利権獲得戦争に走り出した無謀ともいえる開戦の実態が明らかになった。
第7回	2006.5	「遊就館」見学	東海林次男氏 (歴史教育者協会常任委員)	講演「太平洋戦争は『自存自衛』の戦争か」をあたかも検証するような遊就館の展示。ガイド役の東海林先生の的確な説明で参加者一同いっそう歴史認識が深まった。
第8回	2006.8	映画「蟻の兵隊」鑑賞会と懇談会		終戦後も中国に残留させられ中国内戦を戦った元兵士の悲しみと憤りの日々を記録したドキュメンタリー。 戦争の非情・理不尽・民の悲劇が観るものの胸を打つ。
第9回	2006.9	「蟻の兵隊」に関連して懇談会	佐々木繁男氏	戦争の悲惨を勉強できた。 人間(兵士)を殺人マシンに仕立て上げる軍隊。殺人が手柄になる戦争。
第10回	2006.11	マスコミ報道と憲法九条	市川 隆太氏 (『東京新聞・こちら特報部』の記者)	当時、国会審議中の「共謀罪法案」が持つ大変危険な内容をやさしく解説。第一線で活躍中の記者の目から見たメディアの現状も有益な話だった
第11回	2007.2	ほんとうに憲法「改正」しているのか	小澤 隆一氏 (憲法研究者・九条の会事務局 慈恵医大教授憲法学)	憲法学者である小澤先生からお話を伺って日本国憲法を学びかえた。 世界史的に見ても、また21世紀の世界平和を築くためにも、九条の持つ意味・役割は大きい。
映画鑑賞	2007.3	映画「日本の青空」 (大沢豊監督)		1945(昭和20)年12月に戦後日本のための新しい憲法案＝ 憲法改正要綱 を国民とGHQ(占領軍最高司令部)に提示した「憲法研究会」。この新憲法案はまぎれもなく日本人の手になる自主憲法である。草案の実質執筆者は在野の憲法学者鈴木安蔵。日本国憲法の基本を作ったGHQの作業チームもこの 憲法改正要綱 を参考にした。 「日本の青空」は劇映画だが、日本国憲法誕生の原点を史実に基づいて正確に復元したドキュメンタリーとも言えよう。
第12回	2007.5 喜多見 砦・大蔵 桜丘 成城の4地域「九条の会」共同開催	映画「戦争をしない国 日本」 (片桐直樹監督)	大澤 豊氏 (映画監督 「日本の青空」監督)	日本国憲法とその平和主義をめぐる規定が、なぜどのように誕生したのか、日本と国際社会に果してきた役割、日本国民の中にどのように生きついできたのか…を戦前(1930年代)からの歴史をたどりながら映像によって検証するドキュメンタリー映画。 大澤さんは、改憲圧力が強まってきている現状に警鐘を鳴らし、憲法を守る国民の声と活動を強めて行こうと呼びかけた。

第1回 2004.10.30

「『九条の会』発足記念講演会の記録」ビデオを見る会（成城地域九条の会の発足）

9氏による「九条の会」発足会の記録ビデオを観る会が成城地域「九条の会」の発足となった。

「会が発足してよかった」「九条を広げたい」「集会での若者の発言がよかった」「憲法の勉強会をぜひ」などの声が多くあり、9氏のアピールを広げること、九条を中心に勉強を重ねることを当面の活動とすることを決定。

第2回 2005.2.6

「憲法第九条は世界市民のねがい」

講師 佐々木 隆爾 氏 (日本大学教授)

ハーグ平和アピール市民会議(1999年5月)は「10の基本原則」の第一に「各国議会は、日本国憲法9条のように、政府が戦争をすることを禁止する決議を採択すべきである」ことをあげ、全世界に訴えた。

第3回 2005.5.29 講演と交流の集い

「自衛隊の軍事力と憲法九条」

講師 山田 朗 氏 (明治大学教授)

日本の自衛隊は「異常な軍事力」を備えた違憲の存在。既成事実のあとで法律がつくられ、戦争容認の価値観が社会に入ってくる。平和勢力の抵抗・反撃の拠点は、教育基本法と憲法九条にもとづく民意の形成。

第4回 2005.8.28

連続学習会

「ヒロシマと憲法九条」

講師 小西 悟 氏 (日本原水爆被害者団体協議会事務局次長)

自ら被爆し、直後の惨状を目にしたショックの凄まじさに、それから自宅にたどり着くまでのすべての記憶を奪われてしまった。『地獄』を生み出す絶滅兵器。人間を殺人マシーンにさせる戦争を、どんな口実であっても起こさせてはならない。憲法九条は歴史教訓と戦争体験が生み出した宝物だ。

第5回 2005.11.23 映画と話し合い

映画「陸軍」 原作:火野葦平 監督:木下恵介

主演:田中絹代・笠智衆・上原謙

昭和19年、戦時言論統制ことに軍の厳しい検閲下でありながら、戦争への異議申し立てを果敢にぞして巧みに描きこんだ名作。日本のアジア太平洋戦争を振り返らせ考えさせる。

第6回 2006.3.21 連続学習会

「太平洋戦争は『自存自衛』の戦争か」

講師 山田 朗 氏 (明治大学教授)

「なぜ開戦に踏み切らなければならなかったのか知りたい」という要望に答えて再び山田先生にお願いした。当時の弱小国への利権獲得戦争に走り出した無謀ともいえる開戦の実態が明らかになった。

第7回 2006.5.20 「遊就館」見学 ～バスツアー～

ガイド東海林 次男 氏 (歴史教育者協会常任委員)

山田朗先生の講演「太平洋戦争は『自存自衛』の戦争か」をあたかも検証するような遊就館の展示だった。ガイド役の東海林先生の的確な説明で、参加者一同、いっそう歴史認識が深まったのではないかと思います。

第8回 2006.8.1 映画鑑賞と懇談会

映画「蟻の兵隊」 監督:池谷薫

懇談 佐々木繁男氏

終戦後も中国に残留させられ中国内戦を戦った元兵士の悲しみと憤りの日々を記録したドキュメンタリー。戦争の非情・理不尽・民の悲劇が観るものの胸を打つ。

第9回 2006.9.8 懇話会

佐々木繁男さんを囲んで

再び佐々木氏を迎え戦争の悲惨を勉強できた。人間(兵士)を殺人マシーンに仕立て上げる軍隊。殺人が手柄になる戦争。

第10回 2006.11.21

マスコミ報道と憲法九条

市川隆太氏 (『東京新聞・こちら特報部』の記者)と語る

当時、国会審議中の「共謀罪法案」が持つ大変危険な内容をやさしく解説。第一線で活躍中の記者の目から見たメディアの現状も有益な話だった。

第11回 2007.2.24

ほんとうに憲法「改正」していいのか

小澤隆一 氏 (慈恵医大教授・憲法

憲法学者である小澤先生からお話を伺って日本国憲法を学びかえた。

世界史的に見ても、また21世紀の世界平和を築くためにも、九条の持つ意味・役割は大きい。

映画鑑賞 2007.7.5

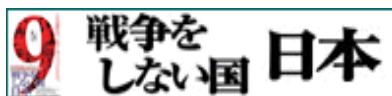
映画「日本の青空」 大澤 豊 監督

1945(昭和20)年12月に戦後日本のための新しい憲法案＝憲法改正要綱を国民とGHQ(占領軍最高司令部)に提示した「憲法研究会」。この新憲法案はまぎれもなく日本人の手になる自主憲法である。草案の実質執筆者は在野の憲法学者鈴木安蔵。日本国憲法の基本を作ったGHQの作業チームもこの憲法改正要綱を参考にした。

「日本の青空」は劇映画だが、日本国憲法誕生の原点を史実に基づいて正確に復元したドキュメンタリーとも言えよう。

第12回 2007.5.20 映画鑑賞と懇談の会

喜多見・砧大蔵・桜丘・成城地域「九条の会」共催



片桐直樹監督

お話 映画監督 大澤豊氏 (「日本の青空」監督)

日本国憲法とその平和主義をめぐる規定が、なぜどのように誕生したのか、日本と国際社会に果たしてきた役割、日本国民の中にどのように生きてきたのか…を戦前(1930年代)からの歴史をたどりながら映像によって検証するドキュメンタリー映画。

大澤さんは、改憲圧力が強まってきている現状に警鐘を鳴らし、憲法を守る国民の声と活動を強めて行こうと呼びかけた。